

World's Window

さあ、窓を開けて世界をのぞいてみようよ



Vol.71

ニュージーランドの学校



世界の国々や地域を紹介するコーナー「ワールズ・ウィンドウ」！
案内役は、国際交流員のカレン・イートンさんとアレックス・ロザウスキさんです。

Hello!カレンです。この間、町の数か所の保育園や小学校の卒業式と入学式に出席しました。すると、何人かの人に「ニュージーランドでは入学式や卒業式をどのように行いますか？」と聞かれました。そこで今回はニュージーランドの学校について紹介したいと思います。

小学校の卒業式はあまり記憶がありませんが、日本のようなイベントではなかったと思います。多くの小学校は大規模な卒業式はせず、ただ教室でクラスメートと担任の先生と両親と一緒に簡単なパーティーをします。



△ニュージーランドの小学校での授業風景

私が小学校を卒業した時は全校でダンスパーティーをしたのを覚えています。でもあまり楽しめなかったのを覚えています。その理由は幼稚園の時からとても仲の良い友達がニュージーランドの南島に引っ越すことになったからです。

小学校では「スペリング賞（言葉のつづり）」や「良い振る舞い賞」などをわたしはもらったことがあります。卒業証書というものはありません。卒業証書を失くしてはいないと思うので、おそらく小学校からはもらってないと思います。

また、入学式というものはまったくありません。日本と同じように小学校に入る義務教育の年齢は6歳ですが、ほとんどの子どもは5歳の誕生日の次の日からばらばらに小学校に通い始めます。先生方にとってはとても大変なことだと思います。

実際の学年としては、5歳か6歳の7月から12月31日までの間に学校に来た年を第0学年（Year 0）とする。次の年の学期の始まりからを第1学年（Year 1）と呼び、毎年1学年ずつ上がっていきます。

6歳から16歳までが義務教育で三つの学校に分かれています。小学校（Primary School）は6年間、中学校（Intermediate）は2年間、高校（College）は3～5年間です。



△小学校で農業のことを勉強して、子牛にミルクをあげる妹のポーラ。

16歳になったら、自分の自由意志で高校を卒業することを選べますが、大学に入りたい人は高校の4～5年を勉強しないと大学に入るのが非常に難しいです。

ニュージーランドでは1学年は基本的に1月末から12月

中旬までです。1学年は4つの学期に分かれて、学期の間に2週間の休みがあり、12月から1月にかけて6週間の休みがあります。

平均的な学校の一日は朝9時ごろから始まり午後3時ごろに終了します。午前と午後に短い休憩があり、昼休みは1時間あります。一週間に1回30分くらいの全校集会があり、両親、介護者、地元の人たちの参加も歓迎しています。そこでは国歌を斉唱し、表彰式やお知らせをします。また、歌を歌ったり、あるクラスでは勉強していることについて発表をしたりします。

多くの子どもたちは自分で昼食を作って、毎日学校に持っていくます。普通はサンドイッチ、りんご、みかん、2～3枚のクッキーとヨーグルトなどです。



雨や非常に寒い日以外は、△ランチを食べる場所は屋外ベンチです。教室の中で昼食を食べてはいけないうし、昼休みも外で過ごさないといけません。学校指定の食堂から昼食を注文することもできます。

学校の事務所の外に普段は箱が置いてあるので、注文書と正確な金額を封筒に入れて朝の9時までこの箱に入れます。毎年自分の誕生日に昼食を注文できるのををはっきり覚えています。パイと生クリームドーナツとチョコミルクを頼んだことを覚えています。記憶力はいつもは悪いのに、こういうことをこんなに覚えているのが不思議です。それだけ楽しみにしていたことだったので

す。
鶴田町の小学校、幼稚園、保育園などに行って子どもたちと交流ができ、日本の小学校の生活を見ることができ機会を得てとても嬉しいです。



△小学校の頃のわたしと妹のレーチェル。好きなおとぎ話のキャラクターに仮装する「Book day」の日の写真。